

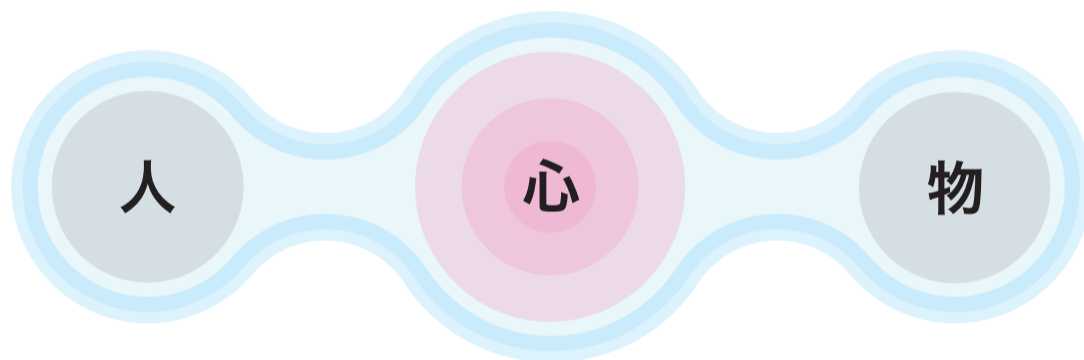
beat

作品コンセプト

これからの未来、モノはムーアの法則によってさらに小さな形で大きなパワーを手に入れる。それはつまり機能と形状の間に視覚的な繋がりが無くなることを意味し、個の喪失はますます製品から愛情を奪う可能性がある。

人とモノとの関係を振り返ると、そこにはまず大前提として愛情の存在があった。手入れをして長く使うという、人とモノの理想の関係は忘れ去られるべきではない。使い捨てが主流となっている現代の大量消費社会にとってこそ、愛情の存在は必要不可欠である。愛情を持ってモノを扱うという当然であった行為が消え去りつつある今日、人とモノとの関係を見つめ直す機会を設けることで、機能を求める現代に実体あるものの価値を考えさせる。

扱い次第で鼓動のリズムが変化する beat は、聴覚情報から私たちに人とモノの関係性を訴えかける。速まる鼓動に気が付いたとき、日常の何気ない動作に心無い自分がいることを実感する。



プロフィール

私たちはモノの尊厳を訴える。人とモノの理想の関係は愛情なくして成立しない。省みると私たちは、無意識にも多くの製品をぞんざいに扱っていることに気が付くはずである。これからのデザインに求められるものは恐らくこれまでと何も変わらない。変わるべきはモノに対する人の姿勢である。ただ、デザインはそれに協力することはできるかもしれない。

是非お手に取ってみてください。鼓動の音が聞こえます。